

7月29日

テーマ：主を待ち望む生活

聖書箇所：ルカの福音書 2章36節～38節

◆今日のみことば

ちょうどこのとき、彼女もそこにいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。

ルカの福音書2章38節

◆メッセージ

お父さんのヨセフさんとお母さんのマリヤさんは、イエスさまを連れて、エルサレムの神殿(神さまを礼拝するところ)に行きました。神さまに感謝をささげ、イエスさまを「主のものです」とおささげするためです。そこで、二人の人から声をかけられました。

一人は、シメオンさんという神さまに仕えている正しく敬虔なおじいちゃん。いつも、イスラエルのために祈り、本当の救いを待っていました。シメオンさんは赤ちゃんのイエスさまを抱いて、「私の目があなたの御救いを見た」と神さまをほめたたえました。イエスさまが救い主だとわかったからです。



もう一人は、女預言者のアンナさん。彼女はたいへん年をとって、84歳になっていました。神さまを信じ、神さまの約束を待ち望んで、いつも宮を離れず、夜も昼もお祈りをもって神さまに仕えていました。それは、人々が神さまを忘れ、自由きままな生活をして



ていたので、争いが多く、悪もはびこっており、貧しい人が苦しみ、暗い世の中になっていたからです。こんな世の中、いくら祈っても変わらない、とあきらめないで祈っていました。神さまは、その祈りを知ってくださいました。だからアンナさんは、イエスさまを見たとき、長い間待ち望んでいた救い主が来られたことがすぐわかりました。神さまの約束が成就したことを知って、喜びにあふれました。感謝とともに賛美しました。

そして、同じように神さまの救いを待ち望んでいた人々に、イエスさまのことを知らせあげました。

神さまは、神さまのなさることを祈って待つ、日々の生活を知ってくださいます。今の若い時だけでなく、年をとっても、いつも神さまから離れず、神さまの与えてくださる救いの喜びを感謝していきたいですね。

◆お祈り

「いつでもどんな時でも、神さまを信じて待ち望むことができるように導いてくださいますように。」
(支援教師 後藤一子)